

23	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109015	脱髄性神経損傷に起因する難治性神経因性疼痛の治療標的分子の同定	植田 弘師（長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>本研究は難治性疼痛の代表である神経因性疼痛の発症にリゾフォスファチジン酸（LPA）が関与していることを基盤とし、脱髄形成シグナルを解析する系を確立し、本研究課題では詳細なメカニズムを明らかにすることを目的とした。その中で、アロディニア現象の可視化、脊髄後角入力細胞における電気生理学的解析、アロディニアと疼痛過敏の分子基盤については順調に成果を挙げている。しかし、計画書にあるトランスジーン法の開発、下降性疼痛抑制機構についての解析はまだ行われていない。</p> <p>また、研究成果として発表されているものは十分とはいえない。これらの点での努力が望まれる。</p>				
24	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109016	シェーグレン症候群発症の分子基盤の解明と新たな診断・治療法の創出	林 良夫（徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>本研究は、シェーグレン症候群の発症の分子基盤を解明し、新しい診断法や治療法の開発を目指そうとするものである。これまでの研究で、分子基盤の解明についてはかなりの進展がみられ、その成果は質の高い国際誌に発表され高く評価できる。</p> <p>しかし、一方の新しい診断法や治療法の開発については、未だ緒に就いたばかりの感がある。当初の重要な研究目的である疾患特異的な診断・治療法の開発に繋がる、自己抗原エピトープの解明とペプチド治療の実験的検討、また、臨床症例の蓄積と解析、さらに、プロテアーゼインヒビターを用いた治療実験等の早急な遂行が望まれる。</p>				